

“ていぱーく”

● 高橋 六二

平成18年は二度「ていぱーく」に行きました。これは通信総合博物館のことで、COMMUNICATIONS MUSEUM とも言っています。地下鉄丸ノ内線の大手町駅を出ると、そこが「ていぱーく」です。2階・3階が「ユートピア NHK 放送館」「NTT 東日本情報通信館」「デジタルパーク郵政館」となっていて、それぞれ常設展示を行っています。

5月に行ったのは「江戸の町と東海道」展を見るためでした。1階を使って（1）江戸名所めぐり

（2）東京新名所めぐり（3）東海道の旅（4）電気通信のあけぼの（5）東京の町並み、に分けた展示は絵図・書籍・実物・写真などを使った全62点、それぞれの時代をうつした本物ばかりですから、なかなか見ごたえがありました。図録がぜひとも欲しいほどの展示でした。

10月には「ぼくらの小松崎茂展」を見ました。これも実に懐かしく感動のわきたつ展示でした。このときに感動したことが二つあります。一つは『藝譚海』の現物を、

実に50余年ぶりに目の当たりにしたことです。昭和20年代後半のいなかで、友だちから数冊を見せてもらったのですが、むずかしい誌名が妙に記憶に残っていました。もう一つは浅草や銀座のスケッチ

です。子どもむけの挿絵画家としてしか知らなかった人ですが、「月島上げ潮」「隅田の川風」など、すでに失われた昭和の東京が、においを感じさせるくらいに細密に描かれていました。